

放送伝道ヒストリー

各地域での放送伝道の歴史



山形「世の光」放送伝道協力会

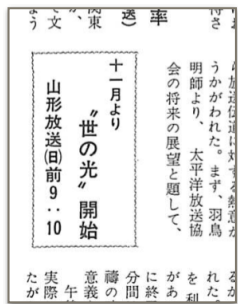
「世の光」
YBCラジオ (月) ~ (金) 5:05am~

山形県で「世の光」の放送が始まったのは1968年、今年、50周年を迎えます。放送が始まった当時の様子を初代協会の委員長、川崎廣牧師にうかがいました。

きっかけは同年10月に、山形第一聖書バプテスト教会の秋の伝道集會に羽鳥明牧師を招いた時、羽鳥牧師からの、「山形放送から、ぜひ『世の光』を放送してほしい」という呼びかけだったとのこと。

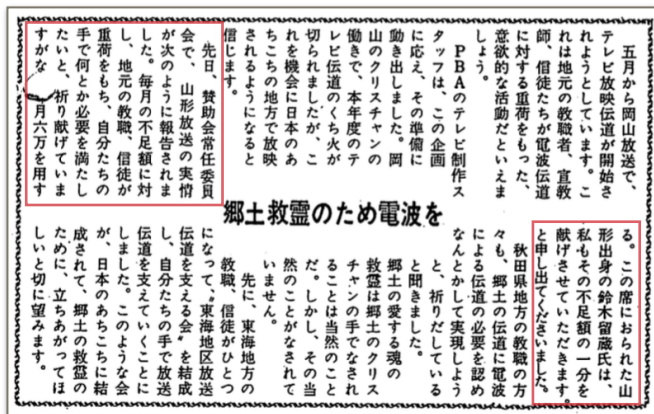
初めは気軽に考え、海外からの支援によるものだと思っていたものの、「日本の教会がこの働きを担って放送をするようにしたい」ということで、これは一人では決定できないと、山形県の諸教会に急遽呼びかけました。早速、翌日9名の牧師が集まってくださったそうです。当時、月に6万円ほどの放送料が必要で、牧師給が3万円という時代。大変な話だったのです。

「ただ、素晴らしいと思ったのは、皆さんとても楽観的。悲観的な方がいなかった。」「ぜひ始められるように準備しましょう!」ということになり、協力会の名前を決める時、「これからの時代は、『世の光』以外にもいろいろな福音放送がでてくるかもしれないから『世の光』に限定せず『山形県放送伝道委員会』にしましょう!」ということに。これが、山形「世の光」放送伝道協力会の前身となります。

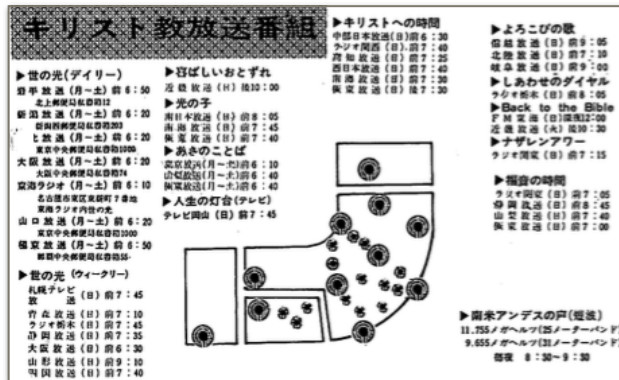


その後、羽鳥牧師から「11月から開始します」との連絡。山形ではようやく委員会を組織して、どうやってお金を集めようかと話し合っている段階。当時は、15分番組の「世の光」は朝9時10分~という、とても良い条件でしたが、なかなか献金は集まらなかったそうです。

しかし、それでも放送は継続されていたといいます。当時の『PBAだより』を見ると、山形県が郷里の鈴木留蔵氏が不足分を補ってくださって、それから何年間かは鈴木



郷土伝道のための呼びかけ



1970年頃の 全国の福音放送番組表

氏の応援があったことがわかります。山形では、とにかく皆さんが献げてくださったものを送ることで精一杯だったとのこと。支えてくださった教会の中には、当時、「山形放送の電波が弱くてあまり聞こえない」という地域の教会もありました。でも、たましいの救いのためにということで応援してくださり、他の教会にも呼びかけてくださいました。やがて、協力教会は徐々に集められ、30教会ほどに増えていきました。

教会の他に、個人やクリスチャンの事業者も協力をしてくださった他、山形県内の幼稚園なども加わり、徐々に協力の輪が広がっていったといいます。「放送伝道は、その背後に、支えてくださった多くの方がいるからこそ継続されてきたといえます。」

また、資金面だけでなく、縁の下の力持ちとなって働いてくださった方々。ある方は私書箱からお便りを回収して返事を出すまで一人で全部やってくださり、召されるまでご奉仕してくださいました。またある方は、「でんわ世の光」のためにオンエアしたものを録音して、一字一句、テープ起こししていました。何月何日のだれだれ先生がという質問を受けた時、ノートだとすぐに答えることができるからということだったそうです。

このようにして、山形での放送伝道は、山形県内の諸教会、クリスチャンの協力によって、今に至るまで継続されてきたのです。

「私は福音のためにあらゆることをしています。
私も福音の恵みをとにも受ける者となるためです。」
コリント人への手紙第一 9章23節



現委員長
鳥居完次牧師



初代委員長
川崎廣牧師